

日本聖公会婦人会 2016年2月10日

ニュースレター NO. 64

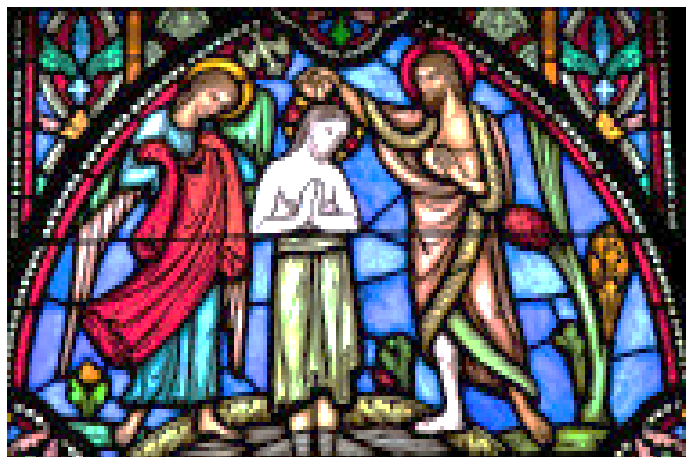
〒520-0044 大津市京町1丁目2-21 大津聖マリア教会気付
TEL077-522-6144 FAX077-524-8343

「日聖婦の活動が宣教の働きとして益々祝福されますように」

日本聖公会婦人会チャプレン 司祭 ヨハネ 石塚 秀司

新しい年2016年を迎えました。日本聖公会婦人会に連なる会員の皆様、今年もよろしくお願ひ申し上げます。日聖婦の活動のために日々活動している役員一同にあっては、思いを新たにすると共に、残された任期があと半年後に迫っていることを思うと、身の引き締まる思いでの年明けではなかったかと推察いたします。6月には3年に一度の総会が開催されます。今までの締めくくりと新たなスタートへのバトンタッチという節目を迎えることとなります。

教会の暦では、1月10日に主イエス洗礼の日を迎えて、イエス様が洗礼者ヨハネから洗礼を受けられたことを覚えました。水の中に身を浸して洗礼を受けて祈っておられると、聖霊がはっきりと目に見える姿で降ったことを語っています。そして、「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」という声を耳にします。これは何を物語っているのでしょうか。私はこう思います。この時、神の子として、神様に愛され御心にかなう者としての使命を内なる声として聴き、はっきりと自覚されたのではないか。さらにその使命を果たすために支え導いてくれる聖霊の力に満たされたのです。これは主イエスによる宣教のみ業の始まりの出来事として描かれています。神様の働きになくしてはならないものは何かを伝えようとしています。日聖婦の上にもこのお力を頂いて、すべての活動が宣教の働きとして益々祝福されますようにと心からお祈りいたします。





ごあいさつ

日本聖公会婦人会会長 モニカ 前田 伸子

主の平和がありますように

新しい年を迎えて、皆さまお元気でお過ごしのことと存じます。

今年も、日本聖公会婦人会創立記念日でもある被献日の礼拝を、皆さまとご一緒にお献げすることができました。

全教区婦人会の皆さまの日々のお働きとお祈りに感謝申し上げます。これからも、役員会と皆さまの思いが共有できることを願っております。

去年は、セシリア大岡左代子執事（京都教区）、フランチェスコ成岡宏晃執事（大阪教区）、ルシア並里輝枝司祭（沖縄教区）、グロリア西平妙子司祭（沖縄教区）、ミカエル杉野達也司祭（神戸教区）、セバスチャン浪花朋久執事（神戸教区）、サムエル北澤洋執事（横浜教区）、エレナ古本みさ司祭（京都教区）、マタイ古本靖久司祭（京都教区）、モーセ石垣進執事（京都教区）、プリスカ中尾貢三子執事（京都教区）、クリストファー永谷 亮執事（北海道教区）、マリア越智容子執事（北関東教区）と、多くの聖職の方がお手助けされ、日本聖公会婦人会として皆さまの喜びとお祝いの気持ちを届けて参りました。これからの尊いお働きをお祈り申し上げます。

また、被献日献金への日本聖公会婦人会の思いが十分に生かされ、神さまのみ心にかなったものとなりますようお祈りいたします。

2015年被献日献金活用報告

被献日献金から学びの支援をさせていただいた方々の報告を掲載させていただきました。1月初旬に申請書類を送らせていただきましたので、申請を検討される方のご参考になればと思います。

《神学生枠》



聖公会神学院 1年生

ふくだ こうじ

マルコ 福田 弘二(北関東教区)







主の平和がありますように。

日本聖公会婦人会の皆様には、日頃からお祈りと御支援をいただき感謝申し上げます。また、この度は、私の被献日献金活用申請を承認いただき、誠にありがとうございます。今回、私は『旧約新約聖書大事典』（教文館）を購入させていただきました。さっそく、普段の授業準備や課題のレポート作成等で活用しています。この事典は事項が詳しいのはもちろんですが、写真や図・表等がふんだんに入っており、視覚を通して理解が深まっていきます。





また、付録の歴史地図も標高が分かるなど充実しており、別冊になっているので「新約聖書入門」の授業にも持参し、先日はパウロの宣教旅行の場所等を確認しました。これからもこの事典にはお世話になると思います。高価な書籍を恵贈して下さった日本聖公会婦人会の皆様の思いに応えられるよう、学びと祈りを深めて参りたいと思います。皆様に主の祝福と恵みがありますようお祈りいたします。

    聖公会神学院 2年生





やまと たかあき

洗礼者ヨハネ 大和 孝明 (東京教区)    

このたびは、昨年に引き続き、被献日における皆様のご厚意により、多くの本をいただきましたことを感謝します。今年は英米の祈祷書に関する注解書や、教会ラテン語の辞書、そして英語聖書、ヘブライ語旧約聖書を申請しました。神学院に入学してその半ばを過ぎましたが、主の十字架と復活に対する思いが強められ、「自分にはイエス様に従って道を歩むことしかない」という強い促しを心の中に感じています。今は特に、聖公会という共同体の成立の要であり、礼拝や教理の中心である、祈祷書について学びを深めています。勉強の際に、皆様からいただいた参考書は大きな力です。学びの質・量共に多くを求められる神学生の生活ですが、卒業ののちも学び続けるための基礎的な力として、聖書と祈祷書の研究に特に力を入れて、続けていきたいと思っています。本当にありがとうございます。





    ウィリアムス神学館 1年生

ヒューム ウィリアム ユーワン





Hume William Ewan (大阪教区)    

主の平和。

2015年度、本科生としてウィリアムス神学館で学ばせて頂いております、イギリス出身ヒューム ウィリアム ユーワンと申します(名字はヒュームです)。この度、被献日献金を利用して、書籍を3冊購入することが出来まして、どうも有り難うございました。全冊は英語版ですけれども、「New International Dictionary of New Testament Theology and Exegesis」と「Dictionary of Jesus and the Gospels」および「Dictionary of Paul and His Letters」を参考にしつつ、新約聖書について理解を深めています。新約聖書は、毎日読み、毎主日礼拝で朗読を聞き、キリスト教にとっては不可欠な文書ですが、分かりにくい部分もあります。聖パウロが書かれた手紙は幾つかが福音書より古いもので、原始教会の状況も含まれています。けれどもギリシャ語から日本語や英語に翻訳するときには微妙な訳が抜け落ちたりします。そのため、新約聖書を原語で読めることは望ましい事だと思っています。申請を頂いた書籍を全冊購入することができ、日本聖公会婦人会の皆様に深く感謝いたします。本当に有り難うございました。

    ウィリアムス神学館 2年生

やなぎはらたけゆき

ルカ 柳原 健之(京都教区)    


いつも神学生をお支えいただきありがとうございます。今年の被献日献金の申請により、神学館の授業で使用する際の教科書や辞典をいただくことができ、誠に感謝しています。


教科書は3年次で使用するものを中心にいただきました。3年生なんてまだまだ先だと思っておりましたが、こ

での生活の半分が過ぎ去り、半年後には3年生になってしまうことに恐れと驚きを感じています。

日々出される課題や実習に追われるばかりで、自分に本当に力がついているのかと疑いたくなる時が多々ありますが、皆さまからのご支援があるからこそ、ここでの学びがあることを忘れず、自分の力を信じ、また神様の助けによりながら学びを続けていきたいと思えます。

これからもご支援いただけますよう、宜しくお願い申し上げます。

 ウイリアムス神学館2年生


つかもと ゆうこ
セシリア 塚本 祐子(九州教区) 


主の御名を賛美致します。

日本聖公会婦人会のお働きに感謝いたします。希望しておりました図書、『新共同訳旧約聖書註釈』I、II、『新共同訳新約聖書註解I』（日本キリスト教出版局）の三冊を手元にいただいております。

入学から一年半、聖書をどう読み進めてよいのか見当もつかなかった時期、不安に慄きつつ先輩達の使用する文献を参考に授業で発表しておりましたが、基本文献中の基本に挙げられていたのが『新共同訳聖書註解』でした。以前に比べますと格段に読み方の見通しというものがついてきたように思われます。図書室のものをコピーして使用しておりましたが、この度自室の本棚に揃えていただきました。こんな心強い事はございません。今後まだ半分残る神学館での月日を豊かな学びの時間としてくれる事と感謝申し上げます。

被頭日献金を通して皆様からいただいたお心に応えられますよう日々福音を読み、理解に努め、主と周囲の方々の声に耳を傾けて参りたいと思えます。今後の御活躍をお祈り申し上げます。

 ウイリアムス神学館3年生

えと よしなお
アンデレ 江渡 由直(京都教区) 


婦人会の皆さまから被頭日献金による学習書籍のご支援をいただきました、ウイリアムス神学館の京都教区神学生：アンデレ江渡 由直(エト ヲシオ)です。ありがとうございました。父が青森(八戸聖ルカ教会)でしたので、珍しい名前かと思えます。奈良育ちで、10歳で洗礼を受け、主日礼拝をひたすら父母と共に守ってまいりました。


今年の3月に企業人としての働きを終え、同時に10年間の神学館での聴講生を卒業(?)し、4月に入学しました。神学館の生活は祈り・学びが一杯詰まった日々で、サラリーマン時代より厳しいですが、神様からの導き、皆さまからのお祈り、そして先生方からのご指導を頂きながらの日々を過ごしております。

私は1年間で神学館を出て京都教区のどこかに派遣をされる予定です。皆様のお祈り、このたびのお支えには、現場でのご奉仕でお応えしたいと思っております。これからもご指導ください。よろしく願いいたします。

感謝





 ウイリアムス神学館 教区派遣聴講生

まつやま けんさく
アンデレ 松山 健作(京都教区) 

昨年度に引き続き、今年度も被献日献金を活用させていただきました。今年度は、主にアジアのキリスト教史に関する文献を購入させていただきました。神学書は、どれも高額で手の届かないものが多いため、ご支援いただき心より感謝しております。

アジアのキリスト教史を学ぶことは、他国、他地域のキリスト教史を理解することにとどまらず、日本の状況と比べることによって、日本のキリスト教あるいはその歴史について考えるきっかけを与えてくれると考えています。アジアのキリスト教について学び、理解を深め、学びの中から働く糧を得ることができればと願っております。みなさまの日々のお祈りに感謝しつつ、学びの時間を大切に過ごしていきたいと思っております。

 ウイリアムス神学館 3年生

えんどうようすけ
テモテ 遠藤 洋介(神戸教区) 

主の平和がありますように。


この度は被献日献金の活用で貴重な神学書を購入していただきありがとうございました。

私は、何冊か購入していただいたのですが、まずこの度いただいた中で、早速毎日の礼拝に活用させていただいている「聖書スタディ版」は用語や背景を脚注で読むことができ、朝夕の礼拝の聖書日課で今まで以上に御言葉を味わい、反すうする楽しみを与えてくれます。

また、「新約聖書外典」(荒井献編)は、聖書に書かれていない聖母マリアの降誕物語やイエス様の幼子の時の話、四福音書以外の十字架の道行きなどが紹介されており、私たちが普段読んでいる聖書の世界をさらに豊かにしてくれます。

他にも「詩編の思想と信仰」(月本昭男著)や「聖公会の教会問答」(岩城聰著)など、学びをさらに深めてくれる書物をいただきました。この度購入していただいたこれらの書物は本当にどれも良質な本ですが、同時になかなか神学生には購入できない本でもあります。この度はこういった機会を与えていただき、本当にありがとうございました。これらの書物の助けを借りて、これからも学びを深めていきたいと思っております。

 聖公会神学院 2年生

たかやなぎ あきえ
セシリア 高柳 章江(東京教区) 

主の平和

いつも神学院を覚え、祈りに加えてくださいますことを感謝いたします。

また、今年度もお献げものの中から私の希望の書籍、『女性の視点によるキリスト教神学辞典』と『キリスト教礼拝・礼拝学辞典』を頂くことが出来ました。本当にありがとうございます。

私は、今年度前期、「聖書の女性」という講座を学びました。その時、旧約・新約聖書には、数多くの女性たちが登場しますが、聖書の著者が全て男性であったところから、どうしても女性に対する視点が片寄りがちになってい

るということを強く私の中で感じました。

例えば、「姦淫の女」の箇所では、当時、やもめとなった女性が一人で共同体の中で生きて行くことが、非常に困難であった背景を考えた時に、彼女はそうせざるを得なかったことが分かってきます。

つまり、物事の判断には一方向からではなく視点を变えて、角度を変えて、判断する大切さがこの箇所から理解できました。

このことは勿論、女性同士の対話だけによらず、全ての人と対話する時に大切なコンセプトになると思います。

ですから、授業を通して、書籍を通して学び得たことを私の今後につなげていけるように考えています。

これからも宜しくお願いいたします。

在主。



聖公会神学院 2 年生

うえひら こう


ノア 上平 更(北海道教区) 

主の平和。昨年度に続き、被献日献金活用申請を受諾いただき誠にありがとうございます。日本基督教団出版局より出版されている『魂への配慮の歴史』シリーズ全 12 巻をご恵贈いただきました。原書では 3 巻で完結する内容ですが、日本語版では読みやすさなどの配慮から 1 巻を 4 冊に分けて出版されており、全 12 巻のシリーズとなっています。著者は執筆当時「牧会の歴史についてほぼ 100 年にわたって書かれてこなかった」と序文で嘆いています。聖書時代からその 100 年を埋めた現代(カール・ラーナーなど)までの牧会者の足跡を辿る何世紀にも渡る旅は、神学院での学びの時期から始めて決して早いスタートではないでしょう。しかし、本書に登場する現代の牧会者たちとも交流のあった加藤常昭牧師により訳された本書を通して、復活のイエス様が導かれてきたキリスト者の魂への配慮の歴史を少しずつ学び、先達者たちの道しるべを頼りに今後も学んでいきたいと思っています。



聖公会神学院 3 年生

おおやま ようへい

ミカエル 大山 洋平(北関東教区) 

この度は日本聖公会婦人会の被献日献金活用申請を承認いただき、誠にありがとうございました。

毎年、被献日献金活用申請では、高額なためなかなか購入することのできない辞典類を申請させていただいています。今年は『旧約聖書ヘブル語大辞典』を申請させていただき、購入いたしました。

神学院において学び始め、早くも 3 年目を迎えました。他の授業と時間が重なってしまう関係で、今年までヘブライ語の授業を取ることができませんでしたが、今年はやっとヘブライ語の授業を取ることができました。前期には文法を習い、後期ではルツ記を読み進めています。一節一節をヘブライ語で読み、複数の日本語訳を読み比べる作業をする時、今まで聖書をきちんと読んでこなかったという事実を突きつけられます。まだまだ学習が足りず、辞書を完全に使いこなすことはできていませんが、言葉の意味を調べた上で他に用いられている箇所を知ることができるこの辞書を用いて、これからの学びに役立てていきたいと思っています。

主の御名をあがめます。

皆様のお献げによって、日々の学業に必要な書籍を戴きました。中でも、『引照つき新共同訳聖書』を開かない日はほとんどありません。キリスト教は一人ひとりのキリスト者、その教会を通して 2000 年の間その教えが伝えられてきました。それは、その人のうちにみ言葉が宿ったからであると思います。その神秘を思い、何よりも聖書のみ言葉をこの身に植えていただけるようにと祈っております。

また、『キリスト教辞典』は、キリスト教に関する重要な項目が様々な教派の執筆者によって編集された辞典であり、古代から現在に至るキリスト者に関する項目、信仰・教義に関する語句が端的に示されているために、様々な授業科目で活用させていただいています。

今年 4 月からの聖公会神学院での生活が、まだお顔を存じ上げない多くの方々からのお祈りによって支えられていますことを深く感謝し、今後も学業に励んでまいります。本当にありがとうございました。



《教役者枠》

この度は、被献日献金活用制度のご援助をいただき、心から感謝申し上げます。

わたくしは、この 4 月より、立教大学大学院キリスト教学研究科ウィリアムズコースに籍を置き、日常の牧会と二足のわらじで 20 年ぶりに神学の学びに取り組んでいます。ウィリアムズコースは、教役者やミッションスクールで聖書・宗教を教える教員、オーガニストや聖歌隊指導者など、教会の現場で働く人を対象に開かれたコースです。神学校卒業後の宣教牧会の経験の中から生じた「死」とか「老い」とか「病い」とかに対する教会の関わりのある様についての興味・関心を、大学院という研究の場で深め、再び教会の働きの中に持ち帰ることができるようにと励んでいます。

いただきましたご援助は、書籍購入のために活用させていただきます。皆さまのお祈りがこもった尊いおさげを大切に、いただいたこの機会を大切に、一日一日を過ごして参りたいと思います。これからもどうぞお祈りをもってお力を賜りますように。感謝。



《有志枠》

九州教区 熊本聖三一教会 ルツ 秋山みどり

主の平和がありますように

被献日献金活用申請を承認下さってありがとうございました。

2015年5月10日(日)復活節第6主日の午後、シンガーソングライター沢知恵さんのハンセン病問題啓発のためのコンサートを開くことが出来ましたことを感謝いたします。

熊本聖三一教会と熊本県合志市のハンセン病療養所恵楓園内にある菊池黎明教会とは、協働教会として交わりを持ってきました。そこに近隣の教会が加わって春と秋に合同礼拝を行うようになったのですが、十数年前、黎明教会の方たちから、ハンセン病の方たちにとって母にもあたるリデル女史、ライト女史を「母の日」礼拝として守りたいとの希望がありました。

それ以来、春の合同礼拝を5月第2主日(母の日)に決め、近隣の協働教会(久留米聖公会・佐賀聖ルカ伝道所・菊池黎明教会・降臨教会・熊本聖三一教会)で午前中は合同礼拝を、午後は少しでもハンセン病やキリスト教に関心を持ってもらおうと、講演やコンサートを行ってきました。(大牟田聖マリア教会は落雷による火事で消滅)

当日の午前10時半、ルカ武藤謙一主教様の司式、説教で聖餐式が行われ、53名が参加しました。主教様は復活節に読まれるヨハネの福音書をわかりやすく読み解いてくださいましたが、「神様がいかに私たちを愛してくださっているか、人類全体が互いに愛し合い、一つになるためにイエス様を遣わされた。私たちは何かの目的のために一つになるのではなく、一つになることが目的なのです」という言葉が心に深く残りました。

昼食時の交流会では、自己紹介やアピールあり、しばし楽しいひと時を持ちました。

午後1時から行われた沢知恵さんのコンサートは、菊池黎明教会の中山弥弘さんから申し出があり、実現したものです。彼女はライト女史と親しく交わりをされた澤正雄さんの孫で、クリスチャンです。千葉県にお住まいでしたが、今は岡山県に移り住んでおられます。

まず、最初に「療養所の方から招かれたのは初めてです」とおっしゃって、目が不自由な中山弥弘さんにホールの様子を説明してから始められたのにはさすがだなあと感じました。牧師であるお父さんがハンセン病療養所・大島青松園に生後6か月の自分を連れて行ってくれたこと、その後、両親の関係で日本、韓国、アメリカとあちこちでしたが、20年ぶりにコンサートに招かれた青松園で「おかえりなさい」と迎えられたことに感謝し、それからずっとつながっているということをピアノの弾き語りで綴られました。時に優しく語りかけるように、時に力強く訴えるような歌声に、私たちは会場が一つになり、涙する方もありました。中山弥弘さんの感謝の言葉「今後の沢さんの活動が神様によって祝福されるように、と願うばかりです」に、私たちも更に神様のお恵みを感じて散会しました。



京都教区 大和伝道区婦人会 秋の修養会

京都教区 奈良基督教会 齋藤 佳子

宇野 朗子(うの さえこ)さん講演会

「未来へ向かって～『それでも世界は美しい』と子どもたちに伝えたい」を聞いて

秋晴れの気持ちの良い午後、51名が奈良基督教会に集い、福島県福島市から京都府に避難して来られた宇野朗子さんのお話を伺いました。

会の冒頭、井田司祭に、聖歌 552 の作詞者ボンヘッファーについてお話いただき、全員で歌いました。

「善き力持つ者らに 私は支えられて 新しい時に向かい あなたと共に生きる」

「暗闇を照らしたまえ 暖かなともし火よ 分かたれた人と人を 一つに結びたまえ」

それは、この講演会の内容を暗示するような歌でした。

宇野さんは、埼玉出身。震災当時、憲法学者のおつれあいが福島大学で先生をされていて、保育園児だったお子さんと共に、福島市内で暮らしておられました。

震災の前年、福島県知事が、福島原発におけるプルサーマル発電の受け入れを表明しました。それがとても危険なことだとわかり、抗議のアクションを始められました。

2011年は、福島原発稼働 40年という年。その節目の年の3月末に、廃炉を求める大きな集会をしようと準備に追われている最中に、3・11という日を迎えました。

「間に合わなかった…！」という大きな悲しみと絶望感に苛まれながら必死で情報収集。その日のうちに、電源喪失していること、そして、メルトダウンの危険性を知り、夜中に避難を決意。友人母子と共に会津若松市の教会に一旦身を寄せ、県外に出られました。ひとりでも多くの人にこの危機に気づいてもらい、行動を起こしてほしいと祈りながら、「これから西へ避難します。」と、アドレスのわかる人全員にメールを送って…。

あれから4年半以上経ちました。この国の政府、電力会社、マスメディアの酷さは想像を超えるものでした。凄まじい放射能汚染であるのに、人々に伝えない。知らされていたなら、長時間、屋外で給水を待たせたりせず、初期被曝は防げたはずなのに。子どもたちの甲状腺癌がどんなに増えても、知らん顔。「子ども被災者支援法」という法律が成立したけれど、骨抜きにされ予算はゼロ。避難者への住宅支援は来年で打ち切り。極めて危険で劣悪な事故現場で働く作業員の報酬は搾取され、事故、病死の実態は闇の中…。

京都に移住した宇野さんは、政府への交渉、数々の訴訟、海外メディアの記者会見、執筆活動、全国に散らばった避難者の組織づくりと、子育てしながらぎりぎりいっぱい活動されています。本当に頭が下がる思いです。

原子力発電とは、事故を起こさなくても周辺に放射能を放出し、原発労働者を被曝させ、常に誰かの命を犠牲にしなければ成り立たない発電方法。しかも、これほどまでに、悲惨で過酷で理不尽な事故が起こり、何万人もの人が苦しんでいるのに、川内原発が再稼働され、伊方、高浜原発があとに続こうとしているこの現実。あまりにも悲しすぎます。良心はいったいどこへ消え失せてしまったのか…！

原発問題、安保法制、TPP…。次から次へと、命を踏みにじるシステムに移行しようという流れの中に、今、私たちはいます。まさに、崖っぷちです。けれど、決して諦めず、どんな小さなことでもいいから、アクションを起こしましょう。主の御手とともに、私たちは歩みましょう。宇野さんはじめ、すでに全力で動いてくれている人々がたくさんいます。御旨を遂げ、「世界は美しい」と子どもたちに伝えられるように。

☆盛岡聖公会婦人会研修会☆

学びと祈りの会「いま、ここで、主と共に生きる」

東北教区盛岡聖公会婦人会会長 平賀 てる子、副会長 赤坂 康子

2015年6月27日(土)に福島聖ステパノ教会の八木正言司祭様をお迎えして、婦人会の研修会を開きました。婦人会員、教会信徒の方々も含め34名の参加でした。

10時30分からの開会礼拝に続いて講話が始まりました。東北教区伝道開始の処点となった福島聖ステパノ教会、聖堂聖別から110年を迎えたそうです。スクリーンに映し出されたのはとても美しい教会で、あの地震でもがんばって倒れず、原発さえなければの感が否めないということ。次に表れたのは、謎めいた祭壇中央に彫られたイ・ヒ・スのカタカナの重なった文字の形のマーク(聖公会のシンボルのIHSを親しみやすくしたと考えられるもの)で、今も福島聖ステパノ教会の誇りとなっているそうです。是非見てみたいと思いました。続いて教会周りの汚染土の除染の様子。放射能遮断のための土壌を乗せ、さらに黒のシュルターで覆い、教会の隅に置かれていました。2014年9月によりやくクレーン車が来て、大変な作業で除染した土を仮々置場に持っていきました。しかしその近くには仮設住宅があり、「自分たちの所に無くなったからもういい」では済まされない。福島市内の道路はまだ除染作業の継続中、山などは全く手つかずの状態なのだそうです。除染作業後の福島市の空間線量は、事故前と比べると身体に影響がないと言われるもののまだ4倍高い。来年は節目と言われる発生から5年になる。報道陣もさっと引き、忘れられていくかもしれない。福島の場合はこの先40年は不安を背負わなければならないということを感じておいてほしい。東京オリンピックの建設の関係で、除染の仕事する人も減ってきている。そして…

話してきたのは福島の大変さをアピールしたいのではないし、誰かのせいだと言いたいのではない。「現実への不平不満を口にする」のではなく、また「環境が整わなければ生きられない」のではなく、皆と分かち合いたいことは、「今ここに主が共におられる」ことを信じ、「日々希望をもって生きていく」ということ。それがわたしたちの信仰生活であるということ。“おもしろき こともなき世を おもしろく 住みなすものは心なりけり(高杉晋作)”

イエスのメッセージとして、ヨハネによる福音書6章4節～15節の5千人の養いの例を引き、福島原発と重なることを示して下さいました。イエスがいるこの場所で何とかしなさい、あなた自身で事の解決に当たりなさい。社会を否定することではなく別の事を考える。イエスの言葉はあくまでも「ここ」で何とかしなさいということ。「ここ」が神と共に歩む場所。弟子たちは疑心暗鬼だったかもしれないが自分たちができることを差し出した。イエスはそれを受けとめ、命じて(草の上に座るように)取って(5つのパンと2匹の魚を)、賛美の祈りを唱え、分け与えられた(食事を)～聖餐式。社会を否定するという意味ではなく、社会の論理に埋没せず、それ以上の“力”を知らされているのだから。イエスのいる場所にいるのだから。「どうせ無理」と諦めるのではなく、「主が共におられる」ことを思い、やってみること。

最後に祈りを唱え、聖歌2番「風に目をさまして…朝は訪れる」を全員で歌いました。終了後2、3の質問があり、その中から、「岩手は自殺者が多い。危険から人を寄せ付けない傾向があるが、私たちはどのような姿勢で隣人に接したらよいか」に対して、「長い夜も朝は訪れる」ということを、ひとり一人が伝えていくしかない。共に立つ仲間がいて、主が共におられることを。キリスト教は健全な楽観主義だと思う。無責任でもあるかもしれないが「絶対に朝は来るよ」「だいじょうぶだよ」と言えること、それはクリスチャンの特権でもある、と結ばれました。

全員で写真撮影の後、幼稚園ホールに移動して八木正言司祭を囲みながら、楽しく昼食会をしました。身近になった福島の教会と交流ができたらうれしいと思います。主に感謝

被献日献金活動費からの援助をありがとうございます。

(文責 赤坂)

「和歌山伝道区婦人会修養会」

京都教区 岸和田復活教会 マーガレット 佐々田 町子

この度は、被献日献金活用申請を承認していただきまして、ありがとうございました。

お蔭さまで、5月24日（日）避難者のネットワーク拠点「みんなの手」代表の西山祐子さんの「福島のこととはわすれない、自分のこととして」と題したお話をお聞きすることができました。昨年教区センターでの京都教区婦人会および京都伝道区婦人会共催の秋の修養会に役員の方の御紹介で参加させていただいた折、大変感動しまして、是非和歌山にも来ていただきたいと願いました。伝道区の司祭様方々のご協力で実現することが出来ました。

当日は前日までの雨の予報がうそのように晴れ、心も晴々と和歌山聖救主教会に出向きました。午前中は39名での聖餐式が行われ、午後は皆でおいしくお弁当をいただき、その後各教会の紹介や近況報告をして、親交を深めました。又東北の方々に思いを馳せながら「花は咲く」「麦の唄」を歌って西山さんをお迎えしました。

福島から自主避難されている西山祐子さんのお話は、一瞬にして自分の環境が変わり、家族が離ればなれになり、これからもずっと子供への放射能の影響を心配していかねばならないことなど、心が痛む問題ばかりですが、それでも前を向いて頑張っていらっしゃる西山さんの姿に反対に勇気づけられました。4年たった今も、これからも、福島に残り復興に努力している人々や必死に事後処理に当たっている人々を忘れることなく、いつまでも「福島のこととはわすれない、自分のこととして」を考えていかなければならないと実感しました。

講演後は西山さんのお子様も一緒に茶話会を持ち、楽しいひと時を過ごすことができ感謝しております。本当にありがとうございました。



お知らせ

《被献日献金申請》

2016年度の被献日献金申請の締め切りは、

「有志グループ・教役者枠」は3月31日です。

「神学生枠」は4月30日です。

「教区婦人会枠」は随時です。

ニュースレターの活動報告を参考にさせていただいて、皆さまの学びに役立ててください。



《総 会》



第25回(定期)総会は、京都教区センターに於いて
2016年6月16日(木)～17日(金)の日程で開催されます。

昨年も感謝箱献金にご協力いただきました「カード」を
違うデザインでご紹介させていただく予定ですので
ご協力よろしくお願いたします。

【編集後記】

寒さ厳しき折、皆さま お元気でいらっしゃいますでしょうか。
今日から大齋節に入りました。
皆さまの教区でも様々な大齋のプログラムが行われることと
存じます。
春、皆さまと一緒に主のご復活をお祝いしたいと思っております。

ニュースレターはホームページでもご覧いただけます。
www.nskk.org/fujinkai/

